

★ 本製品は新しい発想と、製造技術開発により生み出された製品です。
 素材は数多くの特長を持っており、一般住宅でも広く使われております。

- このたびは、当社製品をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、あなたやほかの人々の危害や損害を未然に防止するものです。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味



警告

●取扱を誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。



注意

●取扱を誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容または物的損害のおそれがある内容を示しています。

〈施工の前に〉



警告

- 本製品は隣地との境界を目的に設置するものです。転倒防止を目的とした防護柵、歩行補助を目的とした手すり等として使用しないでください。
- 本製品の施工には別売『固定部品』もしくは『連結バー材』が必要です。使用しない場合、本体の伸縮により反り・割れが生じる場合があります。



注意

- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。

〈施工上のご注意〉



注意

- 施工前にフェンス板材本体を太陽光に当てないで下さい。部材が伸縮するおそれがあります。
- 強い衝撃を与えないでください。変形やキズ付きの原因となります。
- フェンス本体板材の化学的性質は弱酸性・アルカリ・塩類等には優れた抵抗性を持っています。アルコール系以外の有機溶剤や石油類に侵されやすいので、触れると変色する原因となります。
- 火気があたり続けますと軟化や融解をします。火気は近付けないでください。
- 柱のピッチは1000mm以下で施工してください。それ以上離れると耐風圧強度が、大幅に低下します。
- 柱はアルミメーカー品を使用して、施工してください。
- 本製品の取付については、本体に同梱されている取付説明書をご確認ください。
- 本製品の施工につきましては、固定部品もしくは連結バー材をご使用ください。
- 柱は施工現場の状況（風圧など）を考慮し、指定以上の角・肉厚で十分強度を確保した柱をご使用ください。
- 製品の特性上フェンス本体板材には色差・色ムラがあります。

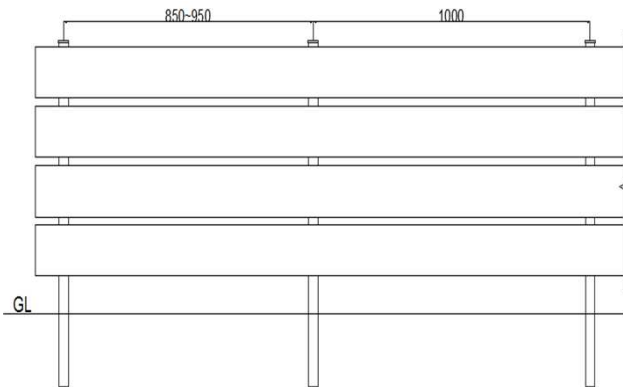
■基礎工事について

⚠ 注意

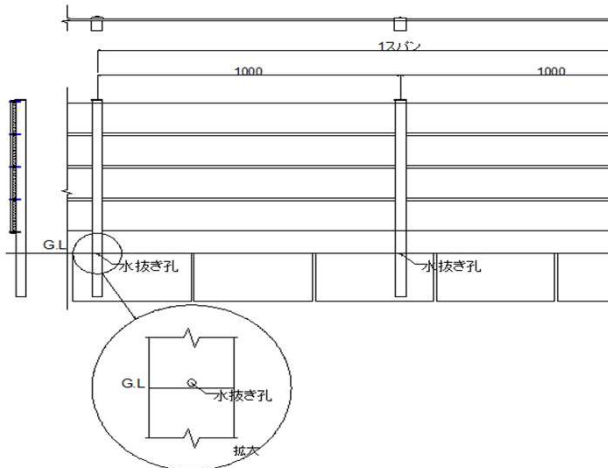
- コンクリート(またはモルタル)には、塩分を含む砂(海砂)および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤(凍結防止剤・凝固促進剤・急結剤などは使用しないでください。アルミなどの金属が腐食の原因になります。非塩素系または非アルカリ系の混和剤をご使用ください。
- 指定基礎寸法は必ず守って施工してください。

■施工手順 (固定部品仕様・連結バー材仕様共通)

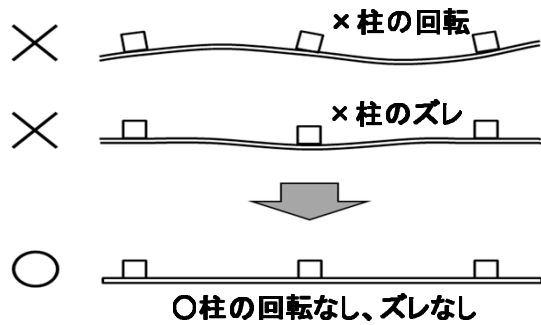
1 柱の施工



2 水抜き穴の加工



⚠ 注意



- 板材取付面が直線になるように柱を設置してください。板の曲りの原因になります。
- 柱が完全に固まってから本体を取付けてください。
- 柱を図のように施工してください。※柱のピッチは1000mm以下で施工してください。
- 両端部の柱は図のように施工して板材をハネ出すと美しく仕上がります。ハネ出しは150mm以下にしてください。
- 柱は必ず垂直に施工してください。
- 柱の埋め込みは基本寸法図Cを参考にしてください。
強い風圧を受け飛散・倒壊事故の原因になります。
- 50×30角柱に施工する場合は、50の面に板材を取付けてください。
- 本体に同梱されている取付説明書をご確認ください。

⚠ 注意

- 必ず柱に水抜き穴をあけ、柱穴に柱を立て、モルタルを打設してください。
※モルタルを打設後に柱を立てると柱内部に水がたまり、凍結破損の原因になることがあります。

3 柱の現場切詰めについて

⚠ 注意

- L1500以下のブロック施工可能な柱には、柱脚に発泡体が挿入されています。柱の切詰め加工をする際には、発泡体を抜取ってから切断加工し、再度挿入してください。
※発泡体のない状態で柱を施工すると凍結破損の要因になります。

